



2019年8月14日

**中東経済シリーズ ～東地中海の天然ガス田～****公益財団法人 国際通貨研究所  
開発経済調査部 主任研究員 九門康之**

東地中海の海底ガス田が周辺国<sup>1</sup>の経済事情を変えようとしている。エジプトを除きめぼしいエネルギー資源がなくエネルギーの確保が重要課題であった。2009年以降に東地中海で発見された天然ガス田が状況の変化をもたらしている。以下、エジプト、イスラエルを中心に経済面への影響を概観する。

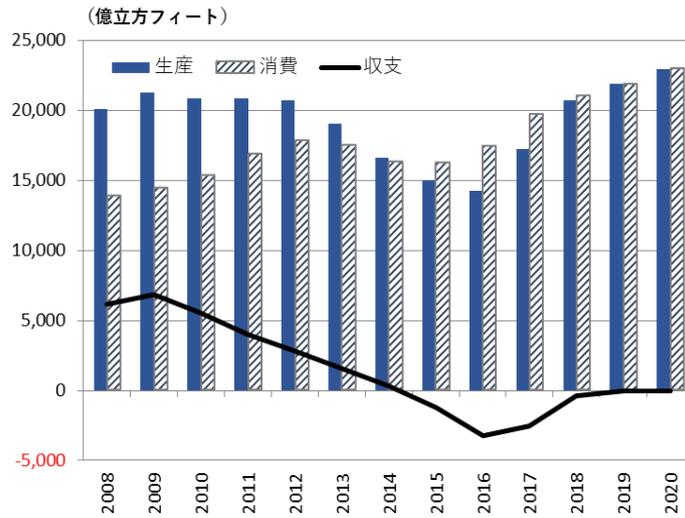
エジプトは2015年8月に地中海に面するダミエッタ市の北約200キロメートルの深海に大型ガス田（「ゾフルガス田」）を発見した。急ピッチで開発が進み、2017年12月に生産を開始した。推定埋蔵量8,500億立法メートル、原油換算57億バーレルで、2015以降に発見された世界最大級のガス田である。

ゾフルガス田はエジプトの貿易収支に影響を与える。2017/18年度<sup>2</sup>は373億ドルの貿易赤字であった。理由の一つは国内需要を賄うため不足する天然ガスを輸入しているためである。2016年には12億立法フィート（21億ドル相当）を輸入していたが、同ガス田の開発により2018年度は自給を達成した模様である。オックスフォードエネルギー研究所は、これまでに発見されたガス田で2023年までは自給を維持できるとしている。潜在的な外貨節約額は貿易赤字全体の6%以下と少額であるが、経済下支え効果と関連産業による雇用の創出が期待できる。さらに、エジプトはイスラエル、キプロス等の近隣ガス田からエジプトにパイプラインを敷設して自国設備でLNGを生産してヨーロッパに輸出するハブになることを目指している。

<sup>1</sup> エジプト、イスラエル、パレスチナ（ガザ）、レバノン、シリア、キプロスおよびトルコ

<sup>2</sup> エジプトの会計年度は6月が決算月。2017/18期は2017年7月から2018年6月。

図表 1：エジプト天然ガス生産と消費

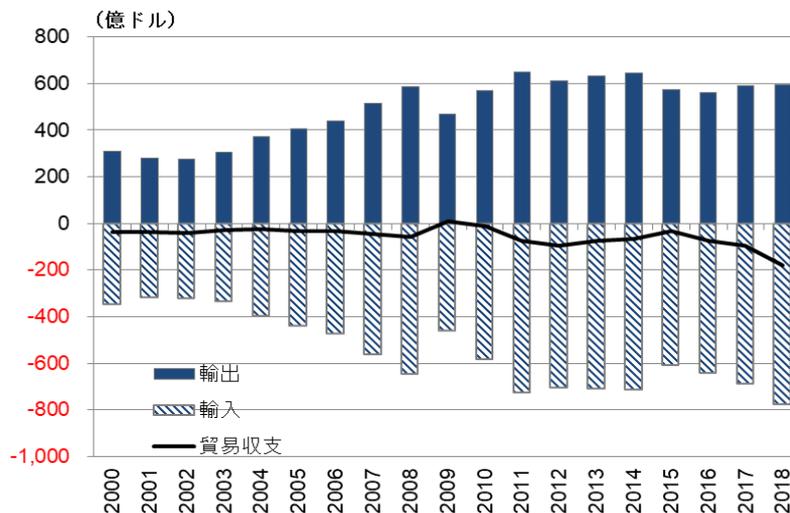


(資料) BP Statistical Review of World Energy、ENI

イスラエルはエジプトより先行し、2010年に地中海沖にタマルガス田を発見した。2013年より生産を開始し、ほぼ自給体制となった。さらに、2010年にはエジプトのゾフルガス田に隣接する海域に大型のリバイアサンガス田（推定埋蔵量 6,300 億平方メートル）を発見した。同ガス田の生産は 2019 年に開始の見込みであり、全量輸出に振り向ける予定である。

イスラエルにとりエネルギーを自給する意味は大きい。まず、天然ガス輸出による追加的外貨獲得手段を得たことで貿易収支の改善が期待される。また、エネルギーを他国に依存する必要がなくなったことは安全保障面でプラスの効果がある。

図表 2：イスラエルの貿易収支



(資料) IMF

東地中海の天然ガスは地域経済的性格転換の起爆剤になる可能性がある。エジプトが短期的にはあるがガス自給国となり、イスラエルはガス輸出国となる見込みである。キプロスやレバノンもガス田によりエネルギーの一部を自給することで貿易収支が改善するのみならず、これらの国に新しい産業が生まれる可能性がある。また、北部に隣接するトルコは炭化水素エネルギーのほぼ全てを輸入に依存しており、地中海でのエネルギー探鉱の可能性が生まれた意味は大きい。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。